

平成28年度学校評価報告書(自己評価)

本年度の重点目標

- 〔重点目標1〕 学校適応感を高める積極的な生徒指導の推進
- 〔重点目標2〕 基礎学力の定着と学力・体力の向上
- 〔重点目標3〕 豊かな心を育てる教育の推進

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	d: 成果及び改善策	
重点目標1	積極的な生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや礼儀、言葉遣いなど規律の大切さを生徒に理解させ、当たり前であることを当たり前に行えるように、粘り強く全職員で組織的に指導した。 ・問題事象が発生した場合、朝の放送において生徒へ呼びかけることによって、物事の是非について考えさせる活動を行った。 ・学級担任・学年職員及び専任生徒指導主事を中心に家庭訪を行うと共に、スクールカウンセラーとの情報交換を密に行った。また、少年支援室等の関係機関と連携した。 ・学期1回の生活アンケート(いじめを含む)を活用した教育相談の実施や、授業中や休み時間、健康観察等により生徒の様子を把握した。気になる生徒へは、個別にチャンス相談を積極的に行った。いじめ防止標語コンテストに全員で応募し、いじめ撲滅への意識の向上を図った。 ・8時30分の時点で下足箱に下履きがない生徒については、副任が家庭連絡し、出欠確認を行った。安否不明の生徒は専任生徒指導主事を中心として、家庭訪問や地域の捜索を行った。また、指導第二課、関係機関との連携を図った。 ・小中一貫・連携推進サポーターが小学校の授業でT2として授業規律の確立を図った。また、児童生徒の課題について、小中学校で情報交換を行った。 ・教師主導で行っていた全校集会を生徒会が中心となり全校集会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象への対応や不登校対策等、専任生徒指導主事を中心に組織的対応を行っており、徐々に指導の効果は見られる。更なるステップアップのために、今後も保護者との共通理解を基本にした指導が必要である。 ・今年度の指導における問題点を分析し、具体的な改善策を検討するために年度末に生徒指導委員会及び職員会議を開催できた。 ・不登校生徒対策は、学校主体の指導に留まることなく、関係機関との連携を積極的に図る必要がある。 ・全職員が、自分の役割を理解し、組織的に行うことができた。 ・生徒主体の全校集会の実施は、生徒の自己有用感を高める上で有効だった。 	
	生徒指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回生徒指導委員会を実施し、専任生徒指導主事を中心とした指導体制を確立し、問題事象について「生徒指導報告メモ」を早期に作成・配布し情報共有に努めた。 ・管理職・専任生徒指導主事を窓口として、警察・少年支援室・子ども総合センター・少年サポートセンター等の関係機関と積極的に連携した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専任生徒指導主事を中心に、関係機関と連携した組織的指導体制は構築されている。今後も、確かな情報伝達と情報共有の精度を高め、同一歩調での指導の徹底を図っていきたい。 	
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方」を学ぶ体験学習や講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業宿泊体験学習などの体験学習を充実させ、昨年度同様、第2学年による立志式を開催し、地域関係者と保護者にも参加してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の伸長のため、明確な将来への展望を持たせ、学習意欲の向上を図るためにも、今後も進路学習を充実させる必要がある。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒の増加に伴い、あらゆる機会を捉え、教職員の特別支援教育に対する意識の向上を図った。年度当初の職員研修において、生徒一人一人の課題を共有し、個に応じた指導を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒の個別の課題を正しく把握し、その課題に対する適切な指導を行う意識を高めたい。
	授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る指導 ・規範意識を高める指導 	<p>教員のバントタッチ制(授業後、次の教員が来るまで教室等で待機する)を実施、生徒が来ない場合、速やかにインターホンで連絡を行い、授業規律の確立及び生徒の所在の把握を図った。</p> <p>授業中の言葉遣いや服装、態度について指導の徹底を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、落ち着いた授業を行うことができるようになってきた。服装違反や授業態度に問題等がある生徒に対しては、専任生徒指導主事、学年職員・小中一貫連携サポーター等と連携した指導を継続していく必要がある。
重点目標2	学力・体力向上に沿った取組	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業に向けた授業改善 ・教科と学年の連携 ・子どもひまわり学習塾の実施 ・家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業5つのポイントを周知し、めあてとまとめ、振り返りの徹底を図り、授業改善を図った。 ・朝自習で基礎問題の繰り返し学習を徹底し、考査前に「出る出るプリント」を作成するなど、学習意欲の高揚を図った。 ・今年度も3年生21名の参加があり、進路実現に向けて、指導員とともに基礎学力の向上を図った。 ・「家庭学習ハンドブック」の活用や、5教科を中心とした宿題としてプリントを課し、テストを行うなどして、適切に評価することで家庭学習の充実を図った。 ・生徒に複数回体験させることで、測定方法を熟知させ、正しく実施することを目指した。授業前に必ず補強運動を行い、体力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示は全学年で出来るようになった。今後はめあての質やまとめと振り返りの充実を図る必要がある。 ・家庭学習の定着を図るための取組や、学年との連携等を強化し、スクールプランの充実を努めたい。 ・新体力テストの結果、体幹が弱いことが分かったので、日常における姿勢に注意を払い、バランスの取れた筋力作りを行う必要がある。
	学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・校内の学習環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館職員やボランティアによる図書館整備と読書に関する啓発活動を推進した。 ・有線放送による、落ち着いた音楽のBGM導入(休み時間、放課後等)ALTと学力向上推進教員が中心となり、掲示板や階段を利用した視覚に訴える取組を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽により、情緒の安定を図ることにより、落ち着いた精神状態で学習に臨める環境づくりに効果が見られた。読書活動の更なる充実をはかると共に、今後も生徒の学習意欲を高める取組を継続したい。
	有用感・成就感を実感させる教育	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の充実 ・積極的な地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業宿泊体験学習や修学旅行、及び社会見学での班別研修等、生徒のさまざまな体験を重視した取組を推進し、さらに指導の効果をも高めるために道徳や各教科との連携を図った。 ・地域の市民センターやまちづくり協議会主催の行事(敬老会や餅つき大会)、小学校の学習発表会等の取組に積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばった生徒を褒める指導に関して、アンケートの結果、教師側と生徒側の間で差が見られた。生徒自身が「自分は頑張った」と感じる場面を多く作ることで、自己有用感の高揚につながる取組を工夫しなければならない。
	教育活動全体を通した道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの取組 ・道徳の時間の工夫 ・感性を育てる指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導によるあいさつや日常的なあいさつを励行し、生徒会やPTAによる朝の挨拶運動を行った。 ・職員道徳研修会の実施による職員の指導力の向上を図り、生徒の状況に合わせた教材教具の工夫を行った。 ・道徳や学活、又は教科の授業において、生徒に道徳的心情を育成するような発問や声かけを積極的にに行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導時、生徒会やPTAの活動、授業におけるあいさつの取組により、少しずつであるが成果が見られた。今後もコミュニケーション能力の向上を図りたい。 ・本校生徒の課題として、道徳的心情の育成がある。生徒の課題に合わせた教材の開発や指導方法の一層の工夫と、より効果的な日常での関わりを要する。
重点目標3	思いやりと命を大切に教育	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の向上 ・ハートフルタイムの活用 ・体験学習の充実 ・多様な外部講師による講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学活や授業において、人権意識が高まる声かけを行い、人権週間に「明日への伝言板」を放送する取組を行った。人権教育ハンドブックを活用した研修を行い、教職員の人権感覚の向上を図った。 ・毎月1回、全校一斉の放送による道徳学習を行った。 ・第1学年での「スクール救命士学習」や、2学年の「農村民泊体験学習」等、体験学習を充実させた。さらに、事前事後の取組を充実させることにより、指導の効果を高めた。 ・福岡県警(「暴力団排除教室」)、LINE株式会社、NPO法人子どもメディア(「ネットによるいじめ防止学習」)等、外部講師による講演会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハートフルタイム」や「明日への伝言板」の教材は、生徒の実態を考慮して題材を考えているために、生徒の真剣に聞いている姿勢につながった。今後も継続したい。 ・様々な体験学習や様々な講演会の取組により、生徒が「命の大切さ」を多面的に学ぶことができた。今後も事前事後の取組を工夫し、継続していきたい。